

子どもの生活をささえる活動から

こどもソーシャルワークセンター（幸重社会福祉士事務所）代表 幸重忠孝

こどもソーシャルワークセンターとは

2012年4月に地域での「こどもソーシャルワーク」の必要性から誕生した子ども家庭福祉に特化した独立型社会福祉士事務所。

■一軒家を活用して行う地域での子どもたちの居場所づくり

□子どもたちの夕刻を支える トワイライトステイ

□学習支援と連動した子ども食堂 eatalk

□若者たちの中間就労支援 ジョブキャッチ

★直接支援の活動の他にも専門機関のケース会議や研修会、講演会へのソーシャルワーカー派遣、居場所（子ども食堂・夜の居場所など）の立ち上げ・運営サポートなど

★詳細は「こどもソーシャルワークセンター」のFacebookページや本日のブースにて資料配付

地域による子どもの貧困対策の成果

□行政サポート型

・京都府「きょうとこどもの城づくり事業（ひとり親家庭のこどもの居場所づくり事業）」

□民間ファンド型（社会福祉法人が資金を出し合っている）

・滋賀の縁創造実践センター「学べる遊べる淡海子ども食堂／フリースペース事業」

★どちらの取り組みも補助金の力で地域や団体事情にあわせて居場所を作ることが出来る

□現在、理美容業界とモデル事業を展開中

・NPO法人そらいろプロジェクト京都「ハピハピカット（Happy Happy Cut）」

地域による子どもの貧困対策の限界と課題

□地域で出来ることは子どもの貧困課題の「予防」や「早期対応」

ここを掛け違えているため、うまくいっていない子どもの貧困対策の活動も多い

□必要な子どもをつなぐシステムが機能していない

スクールソーシャルワーカーが地域との連携の役割を果たしていない自治体間の格差

□活動の立ち上げや続けていくための運営コーディネーターの不在

特に民間団体、行政（自治体）、市民ボランティア、企業をつなぐ存在がない

→今日のイベントが果たす役割の大きさ